

月刊 岩小舎 5月号

■講習山行の記録

「」 4月2日(土) 「」

谷川・湯檜曾／雪山サバイバル

「」

- ◆メンバー：金沢和則(講師)、工藤寿人、坂口理子、久野真由美、福田洋子、伊藤幸雄、横川秀樹、山野昭人、山野美香、福島彰男、尾久一朗、松永己幸、ゲスト1名
- ◆記録：尾久一朗

初めて降りた土合の駅は、期待を裏切らなかつた。谷川岳の歴史が染みついているようだった…。おっと、浸ってはいられない。私ともうひとり、本科生2名が遅刻だ。乗換駅で「あれっ？あるはずの電車がな～い！」新潟県中越地震の影響で上越線が臨時ダイヤになっていたのだ…。土合駅の駐車場には、すでに講師や先輩方10名以上がずらり待っていた。「乗換駅で身支度をすませておいてよかった」とホッとする。

すぐに出発。参加要項によれば、1日目の目的地は一ノ倉沢出合だ。快晴。気温も高く、シャツ1枚でちょうどいい。右手には湯檜曾川が、すでに水面をのぞかせている。春らしい流れの音が心地いい。川幅は3～5mほどだろうか、それでも「いつもの年よりかなり狭く、今シーズンは雪が多い」らしい。この暖かさや雪の多さからすると、雪崩の危険は少なくない。実際、山がせり出した対岸では、ところどころに雪崩の跡があった。いつもより周囲をきよろきよろしながら歩いた。

1時間足らずでマチガ沢出合。沢を渡り少し上った平坦地で、トレーニングと幕営をすることに。去年と同じ場所らしい。一ノ倉沢出合で岩壁を見上げながらトレーニングするのかと期待していたので、人知れずがっかりした。

まずは「ビーコンによる搜索」。装着時の動作チェックに続き、搜索時にどの位の距離からビーコンが反応するかの体験をした。目標(埋まっている人)からの距離で次のように反応した。(山塾からレンタルしたオルトボックスのデジタルビーコン、電池残量85%)

- ①40m～：反応なし
- ②30～40m：ビーコンの音だけかすかに聞こえる。方向指示のLEDかすかに点灯
- ③～30m：距離表示が出る。近づくにつれての表示の減り方もほぼ正確
- ④至近距離：あと70センチ、あと30センチの違いもほぼ正確に識別

思った以上に「頼りになる」印象だった。しかし、いくらビーコンを使っても、実際に埋まっている人を探すのは簡単ではないこともわかった。雪に埋めたビーコンを探すトレーニング(4人が

【今月の目次】

■講習山行	
谷川・湯檜曾／雪山サバイバル	1
谷川・芝倉沢／	2
ピッケル・アイゼンワーク	
かぐらスキー場～神楽峰／山スキー	3
谷川連峰・平標山／山スキー	4
湯河原・幕岩／RCT	5
日和田／RCT	6
■同人便り	6
～想い出の山行／秋の妙高山～	
■山の学習帳 No.12	7
～アルコール その1～	
■自主山行	
木曾御嶽山／山スキー	8
三ツ峠／RCT	10
谷川岳 天神尾根・熊沢穴／山スキー	11
■こちら技術委員会 ～The River Wild～	12
■編集室だより&会員一言集	13
■4月の山行一覧・6月号の予定	14

かり)では、目標物の付近までは数分で達していながら、掘り出すまでには13分もかかってしまった。結果的には自分たちの足の下(ここは掘れない!)にあったのだ!

時間がかかった原因は、ゾンデ棒で場所が特定できず、近辺を手当たり次第に掘ったためだ。人数的に余裕があったのだから、誰かひとりだけがビーコン係になって、常に探りを入れていた方がよかったように思う。見つからないと、段々「場所が違うのかも」と疑心暗鬼になってくるからだ。「ここだ、ここだ、間違いない」と声がかかっていれば、必死さも違ってくるはずだ。

また、「埋没体験」では、雪崩に埋まったらまず身動きがとれないこと、顔の前に空間があることの大切さ、埋まった人の声がなかなか聞こ

えないことなどを実感。

「搬出移動」では、埋没していた人は低体温症になっていると考えてむやみに動かさないこと、ツェルト、ザック、カラビナ(または雪玉)、スリングなどで担架をつくり搬送することなどを体験した。

4時間ほどでトレーニングを終え、テントを設営。横川さんや伊藤さんが屋外に作った雪の大テーブルをみんなで囲んだ。宴は日没後も続いた。風がなかったからとはいっても、本当に暖かくなったものだ。

【行程】

土合駅(10:40)～マチガ沢出合(11:30)～幕営地(11:40)～サバイバル訓練～終了(15:30)

「」 4月3日(日) 「」

谷川・芝倉沢ノピッケル・アイゼンワーク

「」

- ◆メンバー：金沢和則(講師)、工藤寿人、坂口理子、久野真由美、福田洋子、伊藤幸雄、横川秀樹、山野昭人、山野美香、福島彰男、尾久一郎、松永己幸
- ◆記録：尾久一郎

「一日中雨」という天気予報ははずれ、幸い講習中に雨は落ちてこなかった。トレーニング地の芝倉沢へ向かう途中、一ノ倉沢出合で岩壁群を初めて見た。巨大な三角の岩がむき出しになっている。「おおーっ、衝立岩か！」それだけは分かった。工藤講師が「あの辺が〇〇稜、あの辺が〇〇ルンゼ、…」と説明してくれたが、よく目で追えなかった。残念!

トレーニングは出合の小屋の周辺で、2班に分かれて行った。参加2回目以上のメンバーは「コンティニューアス」のロープワークなどを練習。本科生など初参加のメンバーは基本からのトレーニングをした。

まずはピッケルによる滑落停止。そして、悪雪上でバランスを崩さず歩く練習。悪雪は、今シーズンの冬山講習でさんざん経験したので、この程度の雪はかわいいもの?

なるほどと思ったのは、雪の中にピッケルやヘルメットなどを埋める支点の作り方。少なくとも30センチ以上埋める必要があるとのこと。弱い支点なので急激な力をかけて壊さないように、

緩やかにブレーキをかける「ダイナミックブレイ」もよく理解できた。真剣にやらなくてはいけないのだが、安全が確保された状態なので、正直言っておもしろかった。

ブレイの練習後、支点の破壊テストをやってみた。ヘルメットを埋めた支点は2人で引っ張ると抜けてしまったが、ピッケルを横向きに埋めた支点は3人で引っ張っても壊れず、圧倒的に強かった。スコップ、ストックなども代用品になるだろう。また、今回は湿ってよく固まる雪だったので十分な強度が出たが、パウダースノーやザラメなどのときはもっと深く埋めないと支点にはならないだろうと感じた。

最後に「スノーボラード」による懸垂下降。ロープにかかる荷重を水平方向に分散すれば、雪そのものさえ支点になる! 感心しきりであった。

今回は講習としてとても充実していた。ふつうに山に登っているだけでは知ることのできないことを多く勉強できた。

ただ、どこか満たされない部分があったのも

事実。これまで受講した吹雪の仙丈ヶ岳、西岳の猛ラッセル、武能岳の「氷洞削り」など、散々な思いをした講習の方が、ひょっとして自分好み…？満足を求めるには、また新たな「散々」につきまなくてはならないのかと思うと、それはそれで憂鬱に思えた。

【行程】

マチガ沢(7:00)～芝倉沢出合(8:15)～訓練～(11:40)終了～マチガ沢出合で撤収(12:30 / 13:00)～土合駅(13:45)

「」 4月9日(土) 「」

かぐらスキー場～神楽峰／山スキー

◆メンバー：工藤寿人(講師)、沢口千鶴子、山野昭人、山野美香、シニア2名

◆記録：山野昭人

講習参加で初めての山スキー。久しぶりに無名山塾に入った頃の期待と不安が入り混じったような気分を思い出していました。天候は快晴。雪が融けてなくなってしまうのではないかと思われるような気温の中、かぐらスキー場の一日券を身に着け、ロープウェイやリフトを乗り継いで登高開始点へ。

初めてシールを装着。前日家で練習しておいてよかった。「スキーを持ち上げないように歩くのがコツ」という工藤講師の言葉に注意して歩いているうちに、足が慣れてくるのか、スキーが段々気にならなくなってきました。この点はスノーシューと似ています。浮力も同等か少し良いぐらいの感触です。スノーシューと比較して良い点は、(1)斜度がきつくとレースの無い斜面でも足元が崩れない。(2)斜度を自分で決めて登れる。(3)どんなに滑りが下手でも、下りは圧倒的に早い、などが挙げられると思います。逆に劣る点は、多分に習熟度によると思いますが、(1)やはり足元が煩わしい。(2)レースがあると足跡のへこみが気になって逆に滑りにくい、などです。

二時間ほどの登高で山頂に到着。下降は狭い稜線からの滑り始めて緊張しましたが、なんとか無事に通過。尾根から広い斜面に出ると、行く手のはるか下方に田代湖が望めます。木もなくゲレンデのような状況で、「これなら滑れそう」と思ったのもつかの間。斜度もあまりきつくなかったのですが、やはり雪質に少しでも変化があるとすぐ転んでしまいます。とにかく雪が重く感じます。続いて運転停止中のリフトに沿って下

降。まさらかな斜面にそれぞれがシュプールを描いて下降しました。

全体としての感想は、思ったよりもスキーの重さを感じないし、急な斜面でも問題なく登れるということと、ゲレンデよりも雪質や地形の変化が大きいということです。反省点としては、もっとゲレンデでの訓練が必要だと思いました。ゲレンデで転んでいるようでは、山スキーで人並みに滑るのは殆んど不可能ですね。

【行程】

かぐらスキー場リフト終点(10:30)～神楽峰(12:30)～レストハウス(13:40/14:20)～スキー場駐車場(15:00)

お知らせ

原稿の宛先

月刊岩小舎の原稿は、下記までお願いします。

講習山行⇒福田洋子

自主山行⇒伊藤幸雄

同人便り⇒坂口理子

今月の一言⇒久野真由美

メールアドレスがわからない場合は、

sanjc2004@yahoo.co.jp までお問い合わせ下さい。

「」 4月10日(日) 「」

谷川連峰・平標山／山スキー

「」

- ◆メンバー: 工藤寿人(講師)、伊藤幸雄、伊藤栄子、伊藤由以、山野昭人、山野美香、シニア2名
遠足1名
◆記録 : 山野美香

前日の神楽峰でコース・お天気・メンバーと、技術面以外ではハナマルの山スキーデビューを果たすことができました。作られたコースではなく、誰もいないところを好きなように滑る…今までに体験したことのない爽快さを味わえたことがなによりでした。

今日の平標山は前日とは違ってある程度の困難を覚悟しなくてはと、工藤講師に様子をうかがって気持ちを引き締めます。

いくつものことを同時に判断したり解決していくことが苦手な私にとって、幸い天候が穏やかなことで気持ち的には余裕が持てました。これが雨や雪だったり風が強かったりしたらもうそれだけで余裕がなくなり、先のことを考えると不安で胸が苦しくなってしまうのです。

登山口の駐車場はすでに満車状態。どうやらここは人気のルートようです。出発して1時間半ほどで樹林帯を抜けると、そこは広々とした雪原からいくつもの尾根が伸び、その先には堂々と平標山が鎮座しています。そして正面に見える斜面を見ながら工藤講師と伊藤(幸)さんの目がキラキラしていますが、「今回はあの斜面はちょっと無理だね」と自分に言い聞かせるように話していました。(ごめんなさい、あの急斜面がいつか私にもおいしい斜面に見えたとき、是非もう一度一緒させて下さい。)

少しずつ斜度も増し、先頭に行く伊藤(幸)さんが慎重にルートを選んで進んで行きます。今回講習参加で山スキー2回目の私は前に進むことで精一杯、地図やコンパスを見ることすら出来ずに、ただただ伊藤(幸)さんの後を一生懸命について行くだけです。急斜面を何度もキックターンを繰り返しながらジグザグに登り高度を上げていくといつしかハイマツ帯になり、振り返れば苗場山や昨日登った神楽峰が見えました。

ここまでは順調、もう一息だ…と自分に言い

聞かせながら板を進めていくと次第に傾斜も緩やかになり、山頂が見えてきました。これまで一列で登っていたメンバーは広々とした斜面を思い思いのコース取りで山頂へと向かいます。

ほぼ予定通り 12:00 に登山者でごった返す山頂に到着。一息いれて記念撮影後、シールをはがしいよいよ核心の滑降…胸がドキドキしてきました。

颯爽と滑り降りていく伊藤夫妻に「置いていかないで～」と必死に追おうとしますが、ちょっと急な斜面では思いっきりボーゲンになってしまい、それでもうまくターン出来ずに一旦止まってキックターンで方向転換。それにしてもこの斜面、雪崩がいつおきてもおかしくない斜度だなあ…大丈夫かな、なんて考えていると、上のほうから Y 君が転んだ勢いで雪がなだれ落ちてきました。コ、コワイ。

今年は雪が多いからか、木と木の間に空いているのでゆったりと滑り降りることができるのですが、「あの木の手前でターンしよう」と思いながら滑っていくとその木に吸い寄せられていきます。木は見ないほうがいいみたい。

少し滑っては止まって待っていてくれる伊藤夫妻の後をついていこうと必死でターンを繰り返し、なんとか滑り降りることが出来ました。

今回の山スキー、思う存分堪能できましたといたいところですが、滑りに関してはなかなかうまくはいきませんでした。でもケガがなかったのがなにより、そして麗らかな一日を楽しく過ごすことができて幸せでした。

【行程】

平標登山口駐車場(7:30)～林道終点(7:40/7:50)～平標山頂(12:00)～登山口駐車場(14:30)

「」 4月10日(日) 「」

湯河原・幕岩／RCT

「」

◆メンバー：小林英男(講師)、向原侑希、福島彰男、野中達也、池田松野

◆記録：池田松野

JR湯河原駅よりタクシーで幕山公園に入る。小林講師の知り合いの方が多数みえていた。後で聞くと山塾の大先輩の方々という。昨年、加藤さんの小川山講習でお世話になった新井さんもみえていた。

9時40分からくとう虫ロック>ラブユートウ 5.8 ラブミードウ 5.9 を登る。

「目標は今日1日で200mは登る事」なので連続して同じルートを登るように言われた。やさしいルートなので細かいスタンスを拾って登るように心掛けたが大きいスタンスがあると、つい使ってしまうので反省しきり。母指球をギュッと岩に押し付けてしっかり立ち込むようにした。特に3本目のリッジを登る時は「大丈夫、大丈夫だよ。」と言い聞かせてリッジの両側の小さいスタンスを使った。

このリッジは左から右上へ登っていきフェースをローダウンするので登ったらフェースで降りるように態勢を整えてからコールしないとザイルがすうと出てしまう。昨年の小川山の<高い窓>と同じ状態(リッジで登って鉛直にフェース

で降りようとして失敗した)になってしまう。ビレイしている人には上がわからないのでよく確かめてコールしなくてはと思った。

12時過ぎにく茅ヶ崎ロック>へ移動する。空があやしくなってきた。<桃源郷> washing 5.7、蟻さんルート 5.8 をトップロープ、リードで登り、シルクロード 5.7、サンセット 5.10a を登った。それぞれ12~14回登りみんな満足そうだった。野中さんは岩登り3回目というのにルート上もルートを少しはずれた所でもスイスイ登っていくのにはビックリした。

帰りは湯河原のプラットホームでザックに腰をおろし花見をしながらの反省会となり楽しく有意義な課題もたくさん見つかった1日を締めくくった。

【天気】

晴れ後曇り(たまに雨がポツリ)

【行程】

岩登り開始(9:40)~終了(15:00)

お知らせ

無名山塾・本科(登山学校)のご案内

無名山塾・本科は自立した登山者の育成を目的とし、1年間で岩・沢・雪の基礎的な技術(24単位)を取得して頂きます。入会申し込み、お問い合わせは、無名山塾事務局まで電話、FAX、ハガキ、Eメールで。

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F

TEL:03-3941-3481(平日 10時-18時) FAX:03-3941-3482

メール: sanjc@coffee.ocn.ne.jp

入会金:10,000円、年会費:12,000円

山岳保険料:8,000円(4/1~3/31)

「」 4月24日(日) 「」

日和田／RCT

「」

◆メンバー: 金沢和則(講師)、松本善行、坂口理子、沢口千鶴子、伊藤幸雄、田口浩昭、山野昭人、渡部吉実、伊藤栄子、野中達也、松永己幸、尾久一朗、高橋達也、神森揮要子、ゲスト4名

◆記録 : 神森揮要子

2班に分かれ男岩でのトップロープによるクライング、懸垂下降、ピレイの仕方、リードでのロープの設置、支点の取り方など盛りだくさんの講習内容で、満足度 200%の1日でした。

今後の課題は、確実なロープワーク、リード

のロープの設営、マルチピッチの素早いロープ裁きなどが出来るようにすることです。

【行程】

開始(9:00)～終了(16:00)

■ 同人便り ～ 思い出の山行／秋の妙高山～ 【岩本一郎】

私がまだ、ほんとにひよこのハイカーだったころ。奥多摩、丹沢の山に登ったあと、もう少し高い山へと、秋の体育の日の連休に妙高山に行くことにしました。初めての夜行列車、初めての山小屋泊まりでもありましたし、当時の私にとってそれは遠征でした。フンパツして予備日も確保しました。妙高高原の駅に降りると冷たい雨が・・・。こんな天気のときに山に登れるものかどうかもわからなかった私は、近くの民宿を探して予備日を使って停滞。

翌朝は秋晴れの絶好の登山日和となりました。山の頂には新雪がのっているようです。少々緊張しつつも登山道をたどると中腹は見事な紅葉の山道。山上に上がれば新雪で薄化粧した世界が広がっています。雪をかぶった北アルプスの峰々がざらりと並んでいるのを初めて見て感激し、飽かずに眺めていました。あれが白馬三山、あれが鹿島槍、白馬より白いのが後に見えるのはなんだ？雪倉っていう山？・・・。秋の空は澄んで、日本海から、富士山までが見えるような日でした。きれいな景色にひかれて山歩きを始めたのですが、この山行は思いがけない美しさを見せてくれました。これはなかなかやめられないな、と思ったものです。

山上で泊まった山小屋(黒沢池ヒュッテ)では、小屋の方を囲んで話の輪ができ、「春になったらスキーでくるのが楽しいよ。」との話があり、山

スキーというものを知りました。

帰宅後、山スキー道具一式を買いそろえました。スキーには抵抗がなかったため、とりあえず簡単なところに出かけたりしましたが、そう深入りできるはずもなく、「これは講習山行とか、雪上訓練とかに参加したほうがいいかな。」ということで無名山塾の講習会に参加させていただくようになったのでした。

そんなことで、このときの妙高山は、思い出の山行であると同時に、これまでの私の山のスタイルを形作ってくれ、山塾との接点をも作ってくれたのかも知れません。それに山の名前もいいじゃありませんか、「妙なる高み」ですよ。

その後、スキー山行では何度か入山し、楽しませてもらいましたが、いつか、花の時期にでものんびり登りに行ってみたいなあと思っています。



◆◆◆ 山の学習帳 No.12 ◆◆◆

【アルコール その1】

歩き始めたときから、いや人によっては歩き始める前から、今夜の晩餐のためのアルコールをそれぞれが何をどのくらい持ってきているか気になりはじめることがある。ビール、日本酒、ワイン、ウィスキー、最近はやりの焼酎。現在我が家では特に芋焼酎が全盛だ。

酒はなぜ魅力的なのか。言い古された言葉では、酒は百薬の長。でも飲みすぎればアル中、肝硬変と毒の典型でもある。酒を飲むと性格が変わってしまう人もいる。私の実家の斜め前の家のご主人は典型的な例で、ガラスが割れる音がしたり何か大きなものが倒れる音がしたり。うわさでは酒を飲むたびに家具が新しくなっていたとか。酒で人生が変わってしまう事も少なくないようだ。

また、全然酒が飲めない人もいる。これは東洋人に限られるようで、アルコールを分解する代謝経路がとぎれてしまっている一種の遺伝病、いや遺伝的特性である。

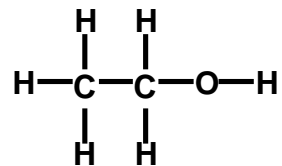
さて人生におおきな影響を与える酒の正体は何なのか。ご存知のように酒が酒たる成分はアルコールである。じつはアルコールと言ってもいろいろある。アルコールランプにつかうメタノール、果ては高級アルコール、すなわち炭化水素の鎖の長いアルコールは洗剤にもなる。安いワインにはグリセリン(グリセロール)が入っていることが一時話題となったが、グリセリンもアルコールの一種。飲用のアルコールはもっぱらエチルアルコールだ。メチルアルコールも飲めないことは無いようだが、沢山のむと失明するそうだ。

さて、エチルアルコールは右図のような格好をしている単純な分子。高校の化学に出てくるから記憶している方も多だろうが、とても人生を変えるような代物には見えないし、飲まなければ蒸発するか燃えるだけでさしたる影響もない。

高校の化学では、有機合成の所でてくるわけだが、その他にもアルコールの製法には2つある。ひとつは原油を精製して分離する方法、もう一つは発酵による方法だ。有機合成しても原油を蒸留して分取しても、結果はエチルアルコールなのだから飲めるはずだが、前の2つはどう考えてもおもしろそうではない。

ここからようやく本題となるが、なぜ酒すなわちエチルアルコールを飲むと酔っぱらうのか。それはある程度以上のペースでアルコールを飲むと、分解量を上回った過剰な？アルコールが脳に到達する。到達したアルコールは脳の神経細胞に作用し、エネルギー源を不足させる事によって脳の働きを抑制して麻痺させるといわれている。千鳥足になっても足が酔っぱらっているのではありません、あしからず。麻痺が極端な場合には生命の維持に必要な活動まで低下させてしまう。急性アルコール中毒だ。ではどのようなペースで飲めばよいのか。人間がアルコールを分解する速度は平均 7mg/時と言われている。アルコールの比重を1g/ml とすると(実際には 0.98g/ml)度数 5%のビールでは 140ml を 1時間で飲むペースなら全く酔わないことになる。つまりこれでは意味がない。これより適度に早いペースで飲めばほろ酔いとなるはずだ。

最後にアルコールの分解能力は基本的には肝臓の大きさに依存するので、体の大きい人の方が酒につよい理屈になる。体重の軽い女性は男性よりも弱いはずだが、回りの女性、特に山塾のメンバーはこの理屈に合わない人が多いようだ。



(同人・山野)

■自主山行の記録

「」 4月16日(土)~4月17日(日) 「」

木曾御嶽山／山スキー

「」

- ◆メンバー:久野眞由美(L)、伊藤幸雄、岩本一郎、伊藤栄子、福田洋子
- ◆記録 :久野眞由美

木曾御嶽山・剣ヶ峰を、御岳ロープウェイスキー場から往復する山スキーのコースは、本来は朝一番のゴンドラに乗り日帰りするコースとされています。が、今回は敢えて「テント泊の山スキー」というコンセプト(?)で臨んでみました。

うらかな春の日、御岳スキー場のゲレンデトップからも、春霞の中に中央アルプスが望めました。この地点で既に標高2150m。初日は、森林限界付近にテントサイトを求めての小1時間程度の登りだけなので、昼頃の何とものんびりしたスタートとなりました。

シールを着けて、ゴンドラ終点から正面の樹林帯の尾根に取り付きます。幕営用具を背負うとちょっと汗ばむほどの陽光でしたが、シラビソやトウヒの樹林帯の中は、日差しも遮られて涼やか。樹々を避けながら尾根を直上、斜度は適度。しかし、幕営用具を背負う山スキーの登りは流石に重く、軽快にサクサク、とは行きませんでした。(私はね)

尾根上、次第に針葉樹の間隔が広がりダケカンバが混じり始めるあたりで、格好の場所を先頭のI氏・Fさんが見つけてくれました。御嶽山の山容が、ド〜ンとよく見える！素晴らしいロケーション。標高にして、丁度 2300m。事前に地形図でチェックしていた思惑通り。

テントを設営し、さっそくプシュッとプルトップを開け(!)、午後の日差しを浴びながら、シールを乾かしたり、明日のルートを観察したり、降りてくる人達の滑りを観察したり。いやいや、明日が楽しみです。カッコヨク滑ってくる山スキーヤーやテレマーカーに刺激された(?)I氏兩名、明日最初に取り付くダケカンバの広い尾根を登って、カッコヨクひと滑りして来ました。ターンの度にガリガリとエッジが音を立てていたので、明日一番の登りは、スキーアイゼンかな？

夜半は風が強かったですが、防風林のように立ち並ぶ樹のそばに設営したお陰で、テントは

大して揺れずにすみました。

翌日も朝から晴れ。しかし、風強し。雪面は固かったので、シールとスキーアイゼンを着けて、まずは昨日I氏兩名が滑ったダケカンバの疎林の尾根に取り付きました。この尾根を登りきると、ここからは無木立。大きな大きな沢状の素晴らしい広大斜面が広がっていました。まだ始発のゴンドラも動いていない時間なので、この広い斜面を登っているのは、当然、私達だけ。

夏道となっている尾根との合流点に向かって、雪崩の危惧も無く、それぞれのペースでそれぞれのルート取りで登っていきました。

シールだけで頑張るIさん、途中からアイゼンに履き替え板を担いだI氏、シール・スキーアイゼンの残り3名(このうちFさんはフリートレック)とそれぞれの好みのスタイルで。パシッと締まった雪面、青空をバックの白い尾根のスカイラインに向けて高度を上げていく姿はなかなか絵になる構図でした。気持ちのいいものです。

尾根に上がると、風は相変わらず強く、下降してきた登山者の話では、頂上稜線は突風との事。山行前の打ち合わせで、アイゼンは必携とするが軽量化の為にピッケルは持たず、頂上稜線付近ではツボ足・アイゼン・ストックで登れる状況範囲内で行動しよう、という事にしていました。この風の状況では、滑落停止や耐風の面で稜線上の行動は難しいと判断し、稜線直下の2900m地点・覚名堂までを目標としました。

Fさんは、尾根の平坦地点に板をデポ。他は、雪で埋まった石室山荘の屋根まで板を持って登りデポ。石室山荘から、ツボ足アイゼンで覚名堂を往復しました。覚明堂の石垣で、冬姿の白い雷鳥2羽を発見。丸々と肥えていて、「う〜ん、プロイラー・・・」

覚明堂のテラスに立ち、登って来た斜面を遙か見下ろすと、始発のゴンドラで上がってきた登山者・山スキーヤーが森林限界付近に現

れ始めていました。かなりの人数が上がってきているようでした。

板をデポした地点まで戻り、ブーツのアイゼンを外して板を履き、いよいよ滑降モード。

ワクワクしながら斜面に立つと、わっ！！。これから滑る斜面を、先程の登り軍団が、広い斜面一面にわらわらと展開しつつ登りにかかっています。トレースを追うような雪の状況と異なり、春の締まった雪ではどこでも縦横無尽に歩けるからでしょうが、下から歩兵部隊に攻められているような、ちょっと恐ろしい(?)光景。皆が上向いて登ってくるこの真ん中を滑り降りるのは、ちょっと恥ずかしいような・・・。

意を決して、向かい来る登り軍団(?)の只中へ飛び込んで行きました。広～い中斜面で雪質も上々、大き目の中ターンで気持ちよ～く、登り軍団の間を抜け(こっち見ないでねっ!)、登る人が皆無の右側の尾根側壁に、ひとまず逃げました。

この雪は硬めだが凹凸が皆無、ビシッとエッジの効いたカービングが出来る人にはたまらないのでは?(ちなみに私はできません)。ともかくも広くて人がいないので、ガリガリとスライディングターンながらも気持ちのいい滑りでした。

ダケカンバの疎林に飛び込むあたりからは、雪はさすがに湿って重くなり、程なくテントサイトに到着。テントを撤収して、登って来た樹林帯の尾根を下降。撤収後とはいえ、日帰り装備よりは重～いのザックを背負っての下りは、意図せずとも意外と加速が付きました。転ぶと起きるのが大変そうなので、シュテム混じりでちょっと慎重に。ザラメながらも軽～いコブの出来たゲレンデを、下まで滑り下っていると、さすがに膝が疲れました。

【行程】

4月16日(土)

JR木曽福島駅 10:30 集合、車に分乗して御岳ロープウェイスキー場ゲレンデトップ(12:30)～標高 2300m 付近にてテント泊

4月17日(日)

幕営地(7:20)～覚明堂(10:50/11:00)～幕営地(12:00/12:30)～ゲレンデトップ(13:05)～御岳ロープウェイスキー場駐車場(13:20)

【フリーベンチャーの使用報告】 福田 洋子

FREE Venture(フリーベンチャー)トレッキング
グスキー専用製品

付属品:ビンディング、シール、アイゼン、すべり止め、固定器具(登山靴時使用)

長さ :1m 幅 :11.5cm 重量(片足):1.5kg

【使用上の注意】

- ・ 山岳地帯では、十分注意し過激な滑走はお止め下さい。
- ・ 急激な力がスキーに掛らないよう滑走下さい。
- ・ アイスバーンや荒れた斜面では、十分注意して滑走して下さい。

とっまあ、こんな物を今回の御嶽山では使わせていただきました。私の腕前から使用感想を述べるのはちょっとおこがましいのですが、今の所と言う事でお許し下さい。

①登り:足が軽いです。重さもさることながら付属のシールも足を滑らせて持って行くのに楽ですし斜面ではしっかり止まります。乾きも早いように思います。

②滑走:滑りの上手い人には物足りないかもしれません。私にはこの位のスピードで十分です。元から早く滑るつもりが無いからです。

③荒れた雪面:でっかいスノーシューの踏み跡には苦戦します。穴に簡単に滑り込んでしまいます。ただ態勢を直して起きあがるのは楽です。足がこんがらがったりしませんから。

総合的に4月の雪でしたらほぼ問題無く使用できると思います。2月に使用した時は、やはり滑りすぎて埋まってしまい下りでも歩いてましたから深雪ではスノーシューの替わりとしての利用がよろしいようです。ただ1月・2月でもスキー場の圧雪した斜面なら普通に滑ります、最近のショートスキーと同じようなものでしょうか。

そして、何よりの利点(今回の一番のメリット)は、持って走れることです。家から駅までと新宿での乗り換えが間に合ったのはこのスキーにしたからでしょう。



「」 4月23日(土) 「」

三ツ峠/RCT

「」

◆メンバー:横川秀樹(L)、山野美香

◆記録 :山野美香

裏三ツ峠登山口駐車場への道路が閉鎖されていたので少し手前の空きスペースに車を止め、1時間程歩いて四季楽園へ。

途中5cm くらいに発達した霜柱がいたるところにあります。どうやら今朝はずいぶん冷え込んでいるようです。四季楽園の裏手にトイレがありますが、凍結のため使用禁止でした。

たしかに寒い、そして誰もいない…。そうです、この日は岩場に一番乗りでした。

静まり返った基部で登攀具を身に付ける間にも身体が冷えていきます。日の当たる場所へ移動し今回の登攀のスタイルや気を付けることなどを横川リーダーよりアドバイスを頂き、まずは一般ルートへ取り付きましたが、岩が冷たく手はかじかんで思うように登ることが出来ません。指先の感覚がなくなり、一手ごとに息を吹きかけたり手を握ったり開いたりしてみてもいけません。1ピッチ登るのに随分時間を費やしてしまいました。つづくT字クラックとクラックでは手がかじかんでいるせいでもザックが重いせいでもなく単に技術的な問題と思われませんが、3回もテンションをかけてしまいました。あ～、情けない。それに加え、ギアの受け渡しを忘れて途中で余分に1ピッチ切ることになってしまい、大いに反省しております。

基部に戻り一息・・・入れているヒマはないらしい。すぐに中央カンテに移動して、2ルート目の登攀開始です。このころにはだいぶ暖かくなってきて、快適クライミングとなりました。

目標は3ピッチ3ルート登攀。3ルート目は残念ながら時間的にちょっと無理そうだったので、一般ルート左1ピッチを登り、トップロープをセットして1本ずつ登り終了となりました。

今回はアブミを腰にぶら下げ、ザックを背負い、長いピッチを休みなしに登攀するという本番へ向けてのトレーニングが目的でしたが、スムーズにいかない部分もたくさんあり、課題山積みではありますが、歩みは遅くとも少しずつでも身に付けていきたいと思っています。

【行程】

駐車場(7:30)～四季楽園(8:20)～取り付き地点(8:50)/登攀開始(9:20)～終了(15:00)



お知らせ

メーリングリストのご紹介

無名山塾の本科、研究生、同人、講師の連絡用に sanjc2004 メーリングリストが運営されています。現在、本科生 6 人、研究生 6 人、同人 15 人、講師 3 人が登録しています。登録がまだお済みでない方は是非登録の申し込みを下記アドレスまでお願いします。

sanjc2004@yahoo.co.jp

「」 4月23日(土) 「」

谷川岳 天神尾根・熊穴沢／山スキー

◆メンバー:伊藤幸雄(L)、工藤寿人、岩本一郎、伊藤栄子

◆記録 :伊藤幸雄

谷川岳を滑りたいと以前より願望していたが、やっと実現することになった。本来は芝倉沢を滑る予定であったが、強風のため急遽天神尾根～熊穴沢に変更。

朝7:00に谷川岳ロープウェイが動き出すので6:30ロープウェイ駐車場に集合した。駐車場はガラガラ状態、この時期になるとボーダーは少ないようで、ちらほら見えるのはオフステ用の太目の板を担いでいる若者とピッケルをぶら下げている山ヤのおじさんやおばさん達、どちらかと言うと我々も後者に近いのではあるが、なんとなく違いを見せ付けたく、ザックとスキーを思わせぶりに担ぐ。(あまり効果はなかった…)

天候は晴天、やや風が強いものの登るのには全然問題ではなく、谷川岳頂上もきれいに見えていた。

一応、アイゼンを履いて8:00天神平スキー場をスタートした。雪質は表面が重みのあるやや溶けかけた雪で下部は引き締まった状態。ツボ足でも十分に登れるが尾根途中に岩肌もあり安全のためにアイゼンは正解かもしれない。

熊穴沢避難小屋(雪で埋まっている)付近から天候が悪化しはじめガスリ状態になってきた。更に頂上近辺になると風が強くなり前も見えなくなってしまった。

10:10 肩の小屋到着。風がおさまるようでもなく、このまま一ノ倉まで尾根を歩くのは危険と判断し、下降ルートを取って天神尾根～熊穴沢滑走に変更した。

10:30 肩ノ小屋からスキーを滑らす。滑り出しはやや急で左側が広く滑りやすい感じには見えるが西黒尾根側に入り込みザンゲ沢に落ちるので絶対に滑ってはいけない。また右側はヒツゴ沢に落ちていく。ここは忠実に尾根を滑る。風に押されながらやや滑るとガスもはれてきて先が見えるようになってきた。尾根上には、山ヤの一行が列をなして登ってきている。

これは目立つ!..ふつつつと山スキーヤー

魂が湧き出てきた。とっ..思っている間もなく、某講師(今回は自主)に先を越されてしまい、登山者の間を「見たか!」と言わんばかりに滑られてしまった。後に続く我々は「登山者の皆様、お騒がせをして申し訳ありません」の気持ちだけは持って同じように滑った。(気持ちが大切)

当然、登山者は唾然として見ていたがこちらとしてはこれがたまたま快感!ただ、この場面で転んでは絵にならないので注意をしないとイケない。(今回は全員OK)

数分滑ると尾根の右側に広く滑りやすい斜面が現れ、先には尾根が見えてくる。「いわお新道」である。下手にそこに滑り込むとヒツゴ沢に入り、登り返すことになるので滑りたくなる誘惑を抑え、こども忠実に尾根を滑る。尾根上の小山を越すと眼下に雪に埋まった熊穴沢避難小屋が現れ、数人の登山者が休憩していた。当然、ここも見せ場となってしまふ。ちょっと急斜面だが観客に向かって滑り込むのはやはり気持ちがいい。

熊穴沢避難小屋から天神尾根を離れ熊穴沢に向かう。熊穴沢は振り子状に滑れる小さな沢で傾斜もゆるく非常に気持ちよく滑ることができる。途中、ザンゲ沢からと西黒尾根のラクダのコルから流れているデブリに遭遇した。特にラクダのコル側からは幅広く流れており早い時期の滑りは危険かもしれない。

11:40 谷川岳ロープウェイ下の田尻沢に到着。熊穴沢下部の雪質は悪く、滑りは今一のところはあったが全体的には変化もあり、滑走距離もそこそこあることから充分楽しむことができた。谷川岳山スキー入門コースとして推薦します。

【行程】

谷川岳ロープウェイ駅(7:40)～天神平(7:50)～天神平(8:00)～肩ノ小屋(10:10/10:30)～熊穴沢避難小屋(10:50)～田尻沢(11:40)

■こちら技術委員会～講師/金沢和則～

<The River Wild>

邦題「激流」という1994年のアメリカ映画。メル・ストリープ、ケビン・ベーコン、デビッド・ストラザーンらが出演。ゲイル(メル・ストリープ)は二人の子供の良き母親であったが、家庭を顧みない夫トム(デビッド・ストラザーン)に失望し離婚を考え始めていた。家族最後の旅との予感を秘めながら、息子ロークの誕生祝いにゲイルの故郷でリバーツーリングをすることになった。そんな彼らの背後に逃亡中の凶悪犯(ケビン・ベーコン)が忍び寄る。人質となり、逃亡の手助けの川下りとなる。ファースト・シーンの静かな川、そこに細長いボートのへさきと細長いオール、そして後半の激流へと流れは続く。沢・川の流れの様がイメージでき面白い。また映画の細かいことはさて置き、個人的には、なぜか技術委員会メンバーにそれぞれのキャラにはまりそうなのがいるので、当てはめながら見ると面白いと思っている。

さて水流に関連しての本題へ。

登山道が無い山頂へのアプローチとしては積雪期を狙う。雪がない場合は沢筋からのアプローチがある。登山道がないころにおいてそうであったように。そんな雰囲気が多く残っていると思われるのは北海道の山。いつだったか夏にK山に入ったとき。台風一過の後の快晴。アプローチの登山道はもともと沢沿いにある。小さな渡渉があつたり沢登り状態だがさらに追い討ちをかけるように増水していた。とくに下部においては流水部分だけで20メートル以上、沢じゃなく川だ。深さは一定で太ももの半ばくらい、水勢はたおやかな感じだが、幅が広いので緊張する。こんな登山道が一般的?!な北海道にチョット感動。いやこんな時は入山しないのが常識か(笑)。ともかくロープを出すことはなくすんだ。なんとなくプリミティブな山の匂いが懐かしい。

そんなことをまた味わってみようかと長野県にもかかるY岳を目指す企画をつくった。K尾根経由で。時期は残雪期。名は知られているが入山者は他のメジャールートに比べ少ない。道が

荒れている、そのときの雪の状態でもルートも変わる。怪しげな古い赤布くらいしか残ってない。沢の渡渉などルートファインディングがポイント。天候の影響を受けやすい。退却ルートが少ない。しかも運もある。などなど山の持つ本来の楽しみがいっぱい。なんといってもピークを踏み、別のところに抜けていくのがいい。

気楽にいけるかと思っただが実際予想もしないところで、渡渉しなければならぬこともあった。渡るポイントを見つけようと探すなかなか見つからない、雪解け時期なので水は冷たい。確実に腰近くまでは水に濡れ、水勢にあおられそう。服装は短パン・ハーネスで対応。足先は都会育ち!? デッキシューズやネオプレンで装備したひと。下肢部分が冷えてもなんとかなるが、足指が冷えると長い時間の渡渉はかなりつらい。沢登りで使う人もいるネオプレン靴下は結構よさそう。でも装備だけじゃ対応できないこともある。冷えた流れだけでなく水勢の強さが半端じゃない。握りこぶしくらいの石を放り込むと、瞬間、水没する前に流れにはじかれ白い泡に消えていく。

何度か渡れそうな(と思うところ)を見つけ振り子式ロープ活用でトライ。用心しながら入水、深さは太ももくらい。しかし水勢は激しくおなか近くまで濡れてしまう。下肢の動きは重力Gをかけられた感覚に陥り、対岸までは程遠い。水深よりこの勢いがすばらしく強くやっかいだった。結局、困難と判断、退却となってしまった。この判断は理にかなったものであったが、同時に、ロープワークの大切さも思い起こさせてくれた。岩とは異なる流れを読んだ動きが必要とされる難しさがある。そして人数が多いとき、二人目三人目が振り子式の持つ安心感を得られるようなロープワークもしっかりできるようにしないと・・・なんて感じた山でもあった。

そうそう7月の夏山サバイバルにはこうした状況に応じたロープワークができる、いままで以上のトレーニングプラン考えないとなあ・・・ご期待か?!

■□■□ 編集室だより ■□■□

ゴールデンウィークも終わり五月病が流行り出してきたきょうこの頃ですが、いかがお過ごしですか。ちゃんと仕事してますか。

私はと一言え、暇さえあれば、クライミングのことを考え、今年目標とするクラシックルートとかフリーやボルダーのグレードアップについて考えています。(おっと、今月の一言と同じことを書いてちゃマズいか・・・)

そして、もうひとつ考えていることと言えば、どうすれば無名山塾を『より良く』できるかということ。

『より良く』と一言で言っても、具体的にはいっぱいありすぎてとても全部は書けません、

①分かりやすく ⇒原点である本科と遠足というシンプルな2本立てに。

②入りやすく ⇒入会金、年会費、講習費の見直し。割引の導入、無料体験講習会の実施。

③技術を伸ばしやすく ⇒本科会員向け無料クライミング(岩・沢)研修会の月イチ開催。

④とにかく活気あふれる会にしたいなあ・・・と。

まっ、イチ同人の考えですが、皆さんもいろいろご意見を出して下さるとそれが大きな流れとなるかもしれませんのでよろしくお願いいたします。

ということで②の手始めとして、4月16日、天覧山でゲスト向け無料岩登り体験講習会を開催しました。もちろん、無名山塾としては初の企画。この講習会には、定員10名をオーバーする11名の方にご参加いただき、大盛況の内に幕を閉じました。ゲストの方には、山塾の楽しさを少し分かってもらえたかなという気がしています。スタッフのみなさまにもこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。(H)

~~~~ 5月の一言集 ~~~~

◆初めての山スキー。初日の神楽峰はなんとか滑り降りたが、二日目の平標山は転がり落ちた距離の方が長かった。久しぶりに完璧な講習生気分を味わった。(山野昭)

◆小川山。かな〜り前。リードで終了点に。同時に途中のフレンズが一つ、二つ？下に流れ・・・今なら笑い話、いやそのときも笑ってた・・・これってかなり歪んでいるかも(笑)(kanazawa)

◆先日沢登りに行った時の事。下手な懸垂下降で腕を擦りむいてしまった。そこでひとつ。「岩登りとかけて、もてない野中ととく」「そのころは」「振られてばかり・・・」(野中)

◆真っ青な空に御嶽山の真っ白な斜面は極上でした。もっと上から滑れるように腕を磨かねば。(FUKU)

◆泊まり山行でサーマレストマットを忘れた為、簡単な持ち物確認表を作り、壁に貼ったが・・・。(いとうえいこ)

◆今年こそ裏銀座縦走したい!!! 頭の中は夏模様で一す。(神森)

◆不甲斐なさばかりで意気消沈の日和田。多くの先輩からの確に指導していただき感謝です。自分も早くあなりたい。(尾久)

◆今月末は一ノ倉、6月錫杖、7月北岳パットレスと滝谷、8月劔岳VI峰フェース。それとフリーは11b、ボルダーは1-2級。今夏の目標です。(横川)

◆ついに、念願の山スキーデビュー！颯爽と滑り降りるのが夢だったのに・・・。OH！HEAVY～！全身恐怖と雪まみれ。修行しなおして、来年も懲りずに挑戦だい！(YUI)

◆本を読み、低体温症の科学を知ると共に、人の身体の偉大さを知った。(松永)

◆今年の山スキーは、好天率99%。八甲田も連日晴天で3日間で5コースも滑って大満足。酸ヶ湯の温泉もすばらしい。勢い余って来年の予約をして帰ってきました。(工藤)

◆靱帯再建手術も無事終了！ようやく第一段階クリア。痛かったが貴重な体験でした。(矢田)

◆4月なんだけど我車のタイヤ、未だにスタットレス。春スキーシーズン中はどうも交換する気がおきない。スキー納めしたらタイヤも交換するか！(ゆKiお)

◆山塾の皆さん、はじめまして、24期で入会した石田です。登山を学習しながら人間的にも成長していきたいと考えています。よろしくお祈りします。(石田)

◆塩見岳は遠かった。雪山は苦しく辛い。だが征服したときの喜びは最高。(福島)

◆5月、雪山としばしばお別れ。入れ替わりに沢・岩なんですけど、冬中滑ってばかりいたツケが回り、上手く登れるのかしらんと少々不安も。練習せねば・・・。(久野)

◆北鎌敗退。強く念じて秋こそはリベンジ!!! 北鎌、北カマ、キタカマ、カニカマ、ササカマ、センダイ、ズンダ、ヤマガタ、イモ煮……やっぱ秋は芋煮だよね～。(R子)

## ■4月の山行一覧

|   | 種類 | 場所                      | 日程      | メンバー                                                                  | 記録       |
|---|----|-------------------------|---------|-----------------------------------------------------------------------|----------|
| 1 | 講習 | 谷川・湯檜曾／<br>雪山サバイバル      | 4/2     | 金沢, 工藤, 坂口, 伊藤幸, 横川, 山野昭, 久野<br>福田, 山野美, 尾久, 福島, 松永, ゲスト1名            | 尾久       |
| 2 | 講習 | 谷川・芝倉沢／<br>ピッケル・アイゼンワーク | 4/3     | 金沢, 工藤, 坂口, 伊藤幸, 横川, 山野昭, 久野<br>福田, 山野美, 尾久, 福島, 松永                   | 尾久       |
| 3 | 講習 | かづらスキー場～神楽峰／<br>山スキー    | 4/9     | 工藤, 沢口, 山野昭, 山野美, シニア2名                                               | 山野昭      |
| 4 | 講習 | 谷川連峰・平標山／<br>山スキー       | 4/10    | 工藤, 伊藤幸, 伊藤栄, 山野昭, 伊藤由,<br>山野美, シニア2名, 遠足1名                           | 山野美      |
| 5 | 講習 | 湯河原・幕岩／RCT              | 4/10    | 小林, 向原, 福島, 野中, 池田                                                    | 池田       |
| 6 | 自主 | 木曾御嶽山／山スキー              | 4/16-17 | 久野(L), 伊藤幸, 岩本, 伊藤栄, 福田                                               | 久野<br>福田 |
| 7 | 自主 | 三ツ峠／RCT                 | 4/23    | 横川(L), 山野美                                                            | 山野美      |
| 8 | 自主 | 谷川岳 天神尾根・熊穴沢<br>／山スキー   | 4/23    | 伊藤幸(L), 工藤, 岩本, 伊藤栄                                                   | 伊藤幸      |
| 9 | 講習 | 日和田／RCT                 | 4/24    | 金沢, 松本, 坂口, 沢口, 伊藤幸, 田口,<br>山野昭, 渡部, 伊藤栄, 野中, 松永, 尾久, 高橋<br>神森, ゲスト4名 | 神森       |

## 月刊 岩小舎 6月号の予定

(2005年6月15日発行)

## 【掲載予定】

## □講習山行

廻目平／チェアキャンプ  
 奥多摩／盆堀川桐葉窪  
 奥多摩／つづら岩 RCT  
 丹沢／小草平ノ沢と勘七ノ沢  
 三ツ峠 RCT  
 富士山・富士宮口／山スキー  
 丹沢／箱根谷沢

## □自主山行

藤坂ロックガーデン RCT  
 上越国境白砂山～三国峠  
 会津／尾瀬スキー縦走  
 槍ヶ岳 北鎌尾根  
 三ツ峠 RCT  
 越沢バットレス RCT  
 小川山／セレクション  
 日和田 RCT  
 御岳 ボルダリング  
 一ノ倉／南稜・中央稜・中央カンテ

発行 無名山塾(埼玉県山岳連盟所属)

住所 東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F

電話 03-3941-3481

FAX 03-3941-3482

HP <http://www.sanjc.com/>

編集長 山野美香

編集部 伊藤幸雄

久野真由美

坂口理子

福田洋子

横川秀樹

## □机上講座の予定

(於:豊島区立勤労福祉会館 19:00～)

6月23日(木) ロープワーク

7月28日(木) テント山行の準備・パッキング・  
生活技術

☆原稿は6月5日締め切りです。